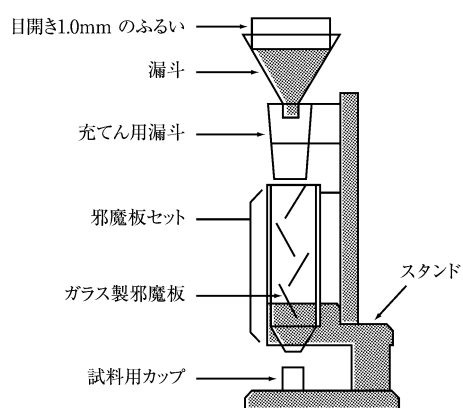


1 3.01 かさ密度及びタップ密度測定法

2 1. かさ密度 1.2. 第2法 (ポリュメーターを用いる方法)の 1.2.1. 3 装置を次のように改める.

4 1.2.1. 装置

5 装置¹⁾(図3.01-1)は目開き1.0 mmのふるいを取り付けた上
6 部漏斗から構成される. この漏斗は, 粉体が通過するときに,
7 その上を滑落したり跳ね上がったたりする4枚のガラス製邪魔板
8 が取り付けられたバッフル・ボックスの上部に固定されている.
9 バッフル・ボックスの底部には, ボックスの直下に置かれた,
10 粉体を集めてカップに注入できるような漏斗がある. このカッ
11 プは円筒形(容積 25.00 ± 0.05 mL, 内径 30.00 ± 2.00 mm)又は
12 立方体(容積 16.39 ± 0.20 mL, 一辺の長さ 25.400 ± 0.076 mm)
13 である.



14 図3.01-1 ポリュメーター

16 2. タップ密度 2.1. 第1法の 2.1.2. 操作法を次のように改める.

17 2.1.2. 操作法

18 かさ体積(V_0)の測定について先に述べたようにして行う. メ
19 スシリンダーを支持台に装着する. 同じ粉体試料について10
20 回, 500回及び1250回タップし, 対応するかさ体積 V_{10} , V_{500}
21 及び V_{1250} を最小目盛単位まで読み取る. V_{500} と V_{1250} の差が2
22 mL以下であれば, V_{1250} をタップ体積とする. V_{500} と V_{1250} の差
23 が2 mLを超える場合には, 連続した測定値間の差が2 mL以下
24 となるまで1250回ずつタップを繰り返す. なお, バリデート
25 されていれば, 粉体によってはタップ回数はより少なくてもよ
26 い. 式 m/V_t (V_t は最終タップ体積)を用いてタップ密度(g/mL)
27 を計算する. この特性値を測定するためには, 一般に測定は繰
28 り返し行うことが望ましい. 結果と共に, 落下高さも記載して
29 おく.

30 100 gの試料を用いることができない場合には, 試料量を減
31 じ, 240 ± 12 gの質量を持つ支持台の上に固定された 130 ± 16
32 gの適切な100 mLメスシリンダー(最小目盛単位1 mL)を用い
33 る. V_{500} と V_{1250} の差が1 mL以下であれば, V_{1250} をタップ体積
34 とする. V_{500} と V_{1250} の差が1 mLを超える場合には, 連続した
35 測定値間の差が1 mL以下となるまで1250回ずつタップを繰
36 返す. 試験条件の変更については, 結果の項目中に記載してお
37 く.